



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <https://www.fil-idf.org/publications/ファクトシートより>

IDF Factsheet 16/2020

IDF ファクトシート 2020年11月

## IDF カントリーアップデートの要約 - 2020年11月

### 要約

SCDPE及びSCMのメンバー19か国（\*）は過去6カ月間の乳製品市場の動向をまとめた。この6カ月は多くの国でパンデミックの初期と重なる期間だった。これらの国は世界生乳生産の大部分を占め乳製品貿易においてもそれを上回るシェアを有している。

- \* オーストラリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、インド、イスラエル、日本、韓国、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、南アフリカ、スイス、英国、米国

### 生乳生産量

農場を取り巻くサプライチェーンに対するパンデミックのストレスや影響が高まる中で生乳生産者による生乳供給が懸念されたが世界の生産者はこれらの切迫した課題に対して弾力的に対応できることを証明した。パンデミックの初期段階においては多くの国で生乳生産量が低下したが大部分の国で後に回復した。生乳生産量の対前年比は▲3.9%から+5.4%の範囲で平均では+1%となった。

### 乳製品の市場

パンデミックによる重大かつ全体的な影響がレストラン、ホテル、ビジネス、学校カフェテリアを含むフードサービス部門を混乱させた。これはメインには政府による公的な措置による結果であったが消費者やビジネス界が自主的に活動を控えたこともあった。一方、大部分の国で小売、オンラインショッピング及び地域食料品市場の売上が増加した。国によって異なるがチーズ、牛乳、ヨーグルト、クリーム及びバターの小売販売量が増加した。プラスマイナスを差し引いた販売総額は僅かな増加から僅かな減少の範囲にとどまった。

乳製品の国際貿易はこれらの混乱にもかかわらず、いや恐らくそのために、拡大した。フードサービスへの販売が減少したため業者は輸出に目を向けるようになった。



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ/<https://www.fil-idf.org/publications/ファクトシートより>

同様に脱脂粉乳のような加工向け原料を輸入していた業者は消費者向けのチーズやLL牛乳

の輸入に力を入れるようになった。乳製品の国際的なサプライチェーンは課題に直面したが総体的に見れば継続的に機能することができた。

## 乳製品のマーケティング

マーケティングにおいては消費者に身近なテーマを継続して訴えた。例えば健康への貢献（プロバイオ効果含む）、自然界の主要及び微量栄養素の組合せによる補完的な効果（乳のマトリクス）、生活習慣への適合（特に活発な若者向け）などである。社会的な関心事、特に環境の持続性に焦点を当てたとの報告もいくつかあった。そしてもちろん、Covid-19関連の課題に関するものもあり、例えば生乳生産者への応援、食料不足家庭への乳製品による栄養補給、乳製品の安心安全性などが伝えられた。

## 生乳生産者価格

パンデミックの拡大に伴う不確実性が乳価の変動を異常なレベルにまで高めた。多くの国では対前年比で乳価の下落を報告したがその幅にかなりの格差があった。対前年比で見ると▲10%から+12%まで広がっており殆ど変動がない国もあった。

## 乳製品価格

パンデミック初期には主要な乳製品のパニック買いが発生したため、フードサービスや食品加工業者などの卸売価格だけでなく消費者価格も高騰した。脱脂粉乳やホエイパウダーなどの原料乳製品の価格は生産者が供給を増やすと下落することが多いにも関わらず、旺盛な需要が高値に押し上げた。サプライチェーンでは小売業者や中間業者のマーケティングコストが上昇し消費者価格を押し上げた。乳製品価格は全体的に上昇し、その上げ幅は+0.1%から+6.9%になった。

## 市場の動向及び見通し

2021年には市場がより正常に近くなるという楽観論がある。一方、政府の新たな施策や消費者の選択により外食需要の落ち込みは2021年も継続すると見込まれる。状況は国によって異なるが一般的には慎重な楽観論といったところか。市場も企業も価格の不確実性をヘッジするための経営手段を強化している。2021年には徐々にではあるが正常に近づくと期待される。パンデミックの予測は困難だとすれば生乳生産、乳製品加工及び乳製品消費への長期的な影響が更に重要になるだろう。



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <https://www.fil-idf.org/publications/ファクトシートより>

## 環境問題

いくつかの国は酪農乳業が環境への負荷を減らす特別な対応を行っておりこれを消費者にアピールしていると報告した。気象変動への対応は現下における喫緊の課題であるが食品残渣や抗生物質耐性もまた注目を集めている。

## 栄養と健康

2020年には多くの人々が乳製品は栄養豊かで用途が広く、家庭内消費に適した素晴らしい食品であると認識した。それにも関わらずその消費拡大を妨げる動きが続いている。政府が広める食生活ガイドラインなどだ。植物由来の食品はこれらのガイドラインで少なからぬ地位を占めるに至っている。

## 家畜福祉

主要な酪農国では乳牛の飼養環境改善、健康維持、栄養供与が農場経営のカギとして認識されているにも関わらず、家畜福祉の証明を求める動きはなくなる。各国から消費者の理解を得るために政府と協力して家畜福祉のガイドラインを定める、業界独自で適切な家畜管理基準を定めるなどの報告があった。

## 結論

報告のあったすべての国でパンデミックによる混乱が発生したが、全体を通じて最も注目されるのは消費者から政府までを通じて牛乳乳製品がどのように製造され、いかに健康的かということに関心が高まったことだ。各国の酪農乳業は、状況の違いはあっても、パンデミックの下で新たな機会を発見又は創造したと言える。2020年にはロックダウンなどによる混乱、従業員の保護や製品の安全確保に伴うサプライチェーンのコストアップ、製造流通体制の再構築など多くの課題に直面したが、最も基本的な収穫は酪農乳業が高い弾力性と調整能力を持つこと、牛乳乳製品は家庭内消費に適した用途の広い基礎的な食品であることを再認識させたことではないか。今我々はパンデミックによる落ち込みの中にいるがやるべきことは沢山残されている。多分、最も重要なことはミルクがどのように生産され何処で消費されているかという昔から続く問いを自分で整理することだろう。



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <https://www.fil-idf.org/publications/> ファクトシートより

## 謝辞

本ファクトシートは、William Loux 氏 (米国), Richard Walton 氏 (日本), Ida Berg Hauge 氏 (ノルウェー) 及び Andrew Milovan Novakovic 氏 (米国) の主導のもと、IDF 酪農政策・経済常設委員会が作成したものである。

翻訳：野村俊夫 (JIDF 経済・市場専門部会委員)

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。